

# 中日病院 だより

「肘部管症候群」は、ひじの内側で神経が圧迫されて生じる神経障害で、まひ症状が特徴です。初期の段階では小指と薬指の一部にしびれの症状が出ます。まひが進行するに伴って、手の筋肉がやせ、小指と薬指がまっすぐ伸ばせなくなったり、指の細かい動きが不自由になったりします。

原因はさまざまです。神経を固定する靱帯や、

## 25 肘部管症候群(整形外科)

肘部管症候群の症状



腫瘍による圧迫、加齢に伴うひじの変形、子どもの時のひじの骨折による変形、野球や柔道などスポーツでひじに負担をかけ過ぎたことなどが考えられます。

ひじの内側をたたくと小指と薬指の一部にしびれが走ることで、この病気が疑われます。電氣を用いた神経の働きを調べ、検査で診断します。検査で異常が見つからない場合は、原因が他にあるかもしれません。

中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎中日病院 052(961)2491

投薬治療で症状が改善しないときは、ひじの内側の神経を圧迫する靱帯や腫瘍を切除します。神経の緊張が強い場合は神経自体を前方に移す手術（篠原孝明整形外科部長談）をお勧めします。

# ひじの内側で神経圧迫